

1	(1) 72	(2) 75	(3) 69	(4) 77
	(5) 33	(6) 49	(7) 9	(8) 37
	(9) 21	(10) 49	(11) 6 <small>しゅうかん (週間)</small>	(12) 99 (cm)

2	(1) 土 <small>よう 曜日</small>	(2) 10	(3) 日 <small>よう 曜日</small>
---	--------------------------------	--------	--------------------------------

3	(1) 36 こ	(2) 28 こ
---	----------	----------

4	(1) 16 <small>てん 点</small>	(2) 10 <small>てん 点ずつ</small>
---	--------------------------------	----------------------------------

5	(1) 48 cm	(2) 18 cm	(3) 8 cm
---	-----------	-----------	----------

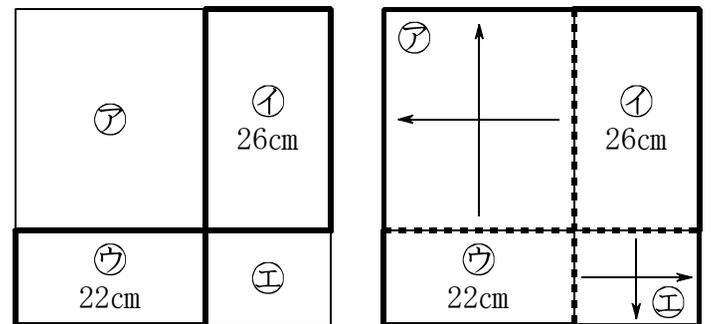
- 1 (6)  $\square + 18 = 67 \rightarrow 67 - 18 = \underline{49}$   
 (7)  $63 + \square = 72 \rightarrow 72 - 63 = \underline{9}$   
 (8)  $88 - \square - 24 = 27$   
 $\rightarrow 27 + 24 = 51 \quad 88 - 51 = \underline{37}$   
 (9)  $\square + 18 + 17 = 56$   
 $\rightarrow 56 - 17 - 18 = \underline{21}$   
 (10)  $57 - 49 + \square = 57$   
 $57 = 57$ より、増減なし。  
 よって、 $\square = \underline{49}$ となる。  
 (11) 7日 = 1週間  
 $42 = 7 \times 6$  よって、 $\underline{6}$ 週間。  
 (12)  $1\text{m} = 100\text{cm} \quad 10\text{mm} = 1\text{cm}$   
 $100 - 1 = \underline{99}$  (cm)

- 2 (1) 1か月に4回だけある月のうち、もっとも小さい日づけから始まっているのは土曜日。よって、たした結果も土曜日がもっとも小さくなる。  
 (2) よこを比べてみる。  
 $1$ 週目…0 (なし)と2で2だけ木曜日が大きい。  
 $2$ 週目…7と9で2だけ木曜日が大きい。  
 $3$ 週目…14と16で2だけ木曜日が大きい。  
 $4$ 週目と5週目も2だけ木曜日が大きい。  
 よって、差は $2 \times 5 = \underline{10}$ となる。  
 (3)  $29 - 7 - 7 - 7 - 7 = 1$   
 令和2年2月は土曜日から始まり、その土曜日だけが5回ある。よって、4回ある曜日のうちもっとも小さいのは2日から始まる日曜日になる。

- 3 (1) ご石を合わせたこ数を数えると、  
 $1$ 番目の図…9こ  $\rightarrow 3 \times 3$   
 $2$ 番目の図…16こ  $\rightarrow 4 \times 4$   
 $3$ 番目の図…25こ  $\rightarrow 5 \times 5$   
 このようなきまりがある。  
 よって、4番目の図は $6 \times 6 = \underline{36}$  (こ)  
 (2) 白のご石のこ数を数えると、  
 $1$ 番目の図…8こ  
 $2$ 番目の図…12こ  $\rightarrow 8 + 4$   
 $3$ 番目の図…16こ  $\rightarrow 12 + 4$   
 このようなきまりがある。  
 よって、6番目の図は  
 $16 + 4 + 4 + 4 = \underline{28}$  (こ)

- 4 (1) 7点になるのは、 $1 + 2 + 4$ のみ。  
 このとき、かずや君は3, 5, ★。  
 よって、 $3 + 5 = 8$  (点)  $8 \times 2 = \underline{16}$  (点)  
 (2)  $1 + 2 + 3 + 4 + 5 = 15$   
 右の図のように、★を持つた人が、持っていない人のちょうど半分になれば、2倍したときに同じ点数になる。 $15 = 5 + 5 + 5$ より同じ点数になるのは、 $5 + 5 = 5 \times 2$ のときの $\underline{10}$ 点ずつ。

- 5 (1) 問題文より、長方形㉑と長方形㉒に注目する。下の図のように、合わせるとちょうどもとの正方形とまわりの長さが同じになる。



- よって、 $22 + 26 = \underline{48}$  (cm)  
 (2) (1)は、長方形㉑と㉒でも成り立つ。  
 $48 - 30 = \underline{18}$  (cm)  
 (3)  $48 = 12 + 12 + 12 + 12$   
 よって、もとの正方形の1辺の長さは12cm。  
 $30 - 22 = 8$  (cm)  $8 = 4 + 4$   
 長方形㉑のたては、長方形㉒のたてより4cm長い。  
 $12 - 4 = 8$  (cm)  $8 = 4 + 4$   
 よって、 $\overline{\quad}$ は4cm。  
 長方形㉑のたては、 $4 + 4 = \underline{8}$  (cm)  
 (配点) 1 ; 各5点×12 他 ; 各4点×10